

4 トピック — きゅうりの需給動向 —

2月3日は、節分の日であるが、平成10年頃からの大手コンビニによる恵方巻きの販売開始も一つの契機となり、この時期に恵方巻きを食べる習慣も広まりつつある。（「恵方巻に関する調査」（株）マイボイスコムのアナケート調査、平成25年）によれば、回答者の7割が、恵方巻きを食べた経験があると回答。

恵方巻には、様々な具材が使われているが、きゅうりは、代表的な具材の一つである。

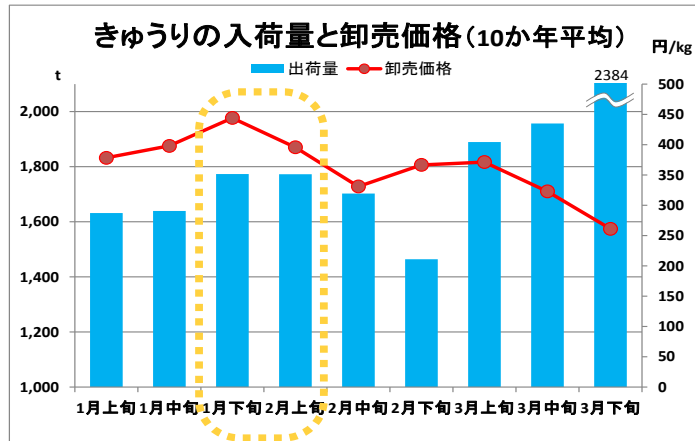
1月から3月の東京都中央卸売市場の入荷量と卸売価格の動向（10か年平均）をみると、1月下旬から2月上旬の間に一時的に入荷量が増え、卸売価格は1月下旬にピークを迎えている。

恵方巻きの普及もあり、この時期のきゅうりの需給動向は、卸売市場等関係者からも注視されている。

きゅうりは、主要産地は、春と夏には関東近県、夏の最盛期は北日本や高冷地へと移動し、冬から春先のこの時期には、宮崎県（全国出荷量第1位）や高知県（同第7位）などの西南暖地等が主力産地である。

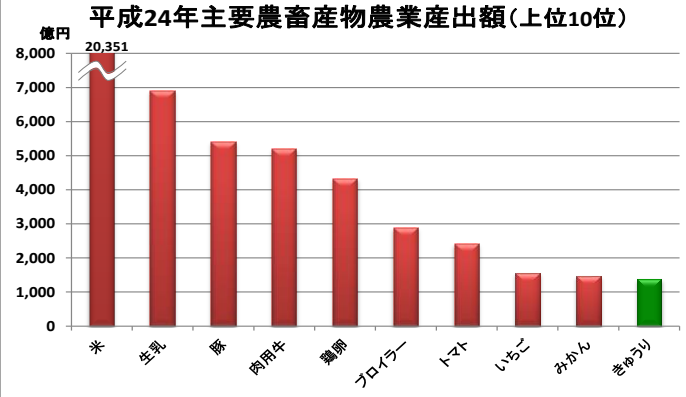
また、農業産出額（平成24年）でみると、きゅうりは、野菜の中では、トマト（2,403億円）、いちご（1,560億円）に次いで、第3位の1,387億円であり、全品目別の順位でも第10位と、引き続き、主力野菜の中核を占めている。

世界のきゅうりの生産量をみると、中国が約4千7百万トンで全体の7割強を占め、次いでイラン、トルコと続き、日本は第9位となっている。中東では、肉料理とともに食べる、ヨーグルトと和えたサラダ料理の食材としてきゅうりがよく利用されている。

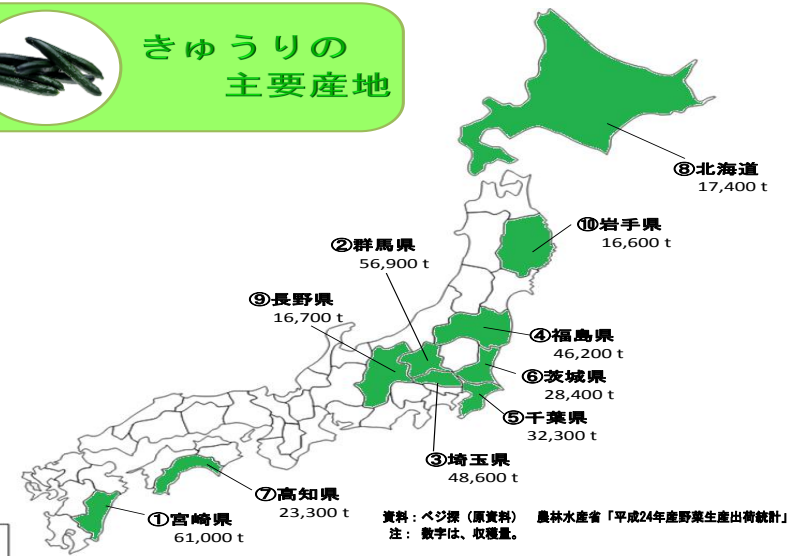


資料：青果物情報センター

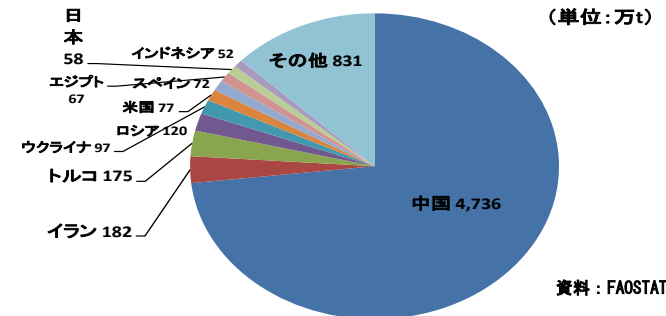
注：東京都中央卸売市場の平成16～25年の入荷量と卸売価格の平均



資料：農林水産省「平成24年農業産出額」



きゅうり生産量（平成23年）の国別内訳 世界の生産量 6,467万t



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、斎藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。